

名蔵湾保護水面管理事業調査（要約）

杉山 昭博

本調査結果についてはすでに「昭和60年度保護水面管理事業調査報告書」（沖水試資料No.91）で報告したので、ここでは調査内容と結果を要約して記載する。

1. 目的および内容

水産動植物の繁殖保護育成のため海草藻場を保全し植物の繁茂、底生動物と葉上動物の分布、アイゴ類幼魚の藻場における成長、保護水面内での柵網による漁獲試験、周辺海域での定置網による漁獲量、既設人工礁の魚類等の蟄集状況および水質の各調査を実施し、藻場における生態的メカニズムを把握することに努めた。

2. 要 約

- (1) 藻場の消長を調べるために定点に方形枠を設置し、ほぼ毎月1回枠内のリュウキュウアマモ、リュウキュウスガモ、および海草全株数を計測した。そして、リュウキュウアマモは前年度と同様に低い水準で推移し、リュウキュウスガモは夏季500株/m²以上の繁茂状況であった。
- (2) 1985年7月4日と12月15日底生動物の調査をおこない線虫類、定在目、および遊在目が多く出現した。
- (3) 1985年4月8日から1986年2月12日までほぼ毎月1回葉上動物調査をおこなった。そして遊在目、定在目、クマ目、端脚目、長尾類、および短尾類が多くみられた。
- (4) 1985年6月26日から8月16日にかけてほぼ毎週1回アイゴ類幼魚の調査をおこない、シモフリアイゴの尾叉長と採捕時期では $y = 29.273 e^{0.0112x}$ 、体重と採捕時期では $y = 0.3060 e^{0.0357x}$ の関係式を得た。また、アミアイゴの尾叉長と採捕時期では $y = 34.758 e^{0.0078x}$ 、体重と採捕時期では $y = 0.5100 e^{0.0283x}$ の関係式を得た。
- (5) 1985年6月17日から22日まで柵網漁獲試験をおこなった。そして5日間の取り揚げで合計23種類、31個体、約7.52kgの漁獲があった。
- (6) 名蔵湾内定置網漁獲量調査をおこない周年にわたる魚種別漁獲量の変化を調査した。また過去5年間の漁獲量を調査し、1982年以降年間漁獲量は増加する傾向がみられ、とくに4月から6月にかけての漁獲量が多い。
- (7) 1985年11月20日に人工礁の調査をおこない約12種類、90個体の魚類等が蟄集しているのを観察し、フェダイ類や稚エビ類が多くみられた。
- (8) 1985年4月12日、7月24日、11月13日、および1986年1月8日に水質調査をおこなった。測定項目は水温、PH、塩分濃度、DO、COD、PO₄-P、NH₄-N、NO₂-N、およびNO₃-Nであり結果は前年度とほぼ同様であった。